



橋北中学校だより

令和8年6月22日(月)

第3号 文責:奥田

津市立橋北中学校

沖縄修学旅行 6月9日(火)から11日(木)までの2泊3日で、3年生の修学旅行を実施しました。昨年より1か月遅れての実施となりましたが、その分、十分な準備を整えて当日を迎えることができました。

本校では以前から沖縄方面での修学旅行を行ってきました。新型コロナウイルス感染症の影響により一時は行き先を変更していましたが、昨年度から再び沖縄を訪れています。今年度も、平和学習と探究学習を中心に据えた、充実した3日間となりました。

6月開催にあたり、特に心配されたのは天候でした。天気予報では3日間とも雨、しかも大雨の可能性が示されていました。実際、出発式は店舗の軒下をお借りして行うこととなりました。このように、予定変更が生じる可能性もある中でのスタートとなりました。

出発にあたっては、生徒たちに対し、これまでに培ってきた力を十分に発揮し、状況に応じて臨機応変に行動できる3日間にしてほしいと伝えました。その思いとともに、今回の修学旅行は始まりました。

1日目の訪問地は「ひめゆり平和祈念資料館」でした。那覇空港に降り立った瞬間、体を包み込むような蒸し暑さが広がり、生徒たちは沖縄の気候を肌で感じました。その感覚は、これから始まる学びへの入り口でもありました。

バスで資料館へと向かい、到着したその瞬間、まるでスコールのような激しい雨に見舞われました。傘をさしていても一瞬でずぶ濡れになるほどの雨。予想を超える自然の力に圧倒されながらも、それもまた沖縄という地を実感する貴重な体験となりました。教科書や映像だけでは得ることのできない「実感」が、そこにありました。

本来は、ひめゆりの塔の前で平和セレモニーを行う予定でしたが、激しい雨のため場所を移しての実施となりました。

厳かな空気の中、実行委員を中心に、全校生徒の思いが込められた千羽鶴を献納しました。そして代表生徒が平和宣言を読み上げ、その一言一言に、平和への願いが静かに、そして確かに響き渡りました。雨音さえ背景となり、より深い意味をもって心に届く時間となりました。

資料館の中では、生徒たちが真剣なまなざしで展示と向き合っていました。メモを取りながら、一つひとつの資料に目を通し、そこに記された思いや出来事を自分なりに受け止めようとする姿が見られました。

十分に時間を確保していたにもかかわらず、それでもなお時間いっぱいまで見学を続ける生徒の姿が多く見られました。そこには、「知りたい」「感じたい」という強い思いが表れており、この場所での学びが、確実に心に刻まれていることが伝わってきました。



2日目の午前中は、「シーカヤック」「シュノーケリング」「沖縄のお菓子作り」「シーサー作り」のコースに分かれ、それぞれ体験活動を行いました。

海での活動は天候の影響が心配されましたが、シーカヤックはバナナボートに変更、シュノーケリングはより安全なビーチへ移動するなど工夫がなされ、どの活動もほぼ予定通り実施することができました。

青空のもとではなりませんでしたが、生徒たちは海の中で魚に触れたり、サンゴを間近に観察したりと、自然と一体になる貴重な時間を存分に味わっていました。その一瞬一瞬が、忘れられない思い出として心に刻まれたことでしょう。

また、屋内での「お菓子作り」や「シーサー作り」の活動でも、インストラクターの方々のお話に耳を傾けながら、沖縄の文化に触れる充実した時間を過ごしていました。どの会場を訪れても、生徒たちのいきいきとした笑顔や、作品づくりに真剣に向き合う姿が見られ、それぞれが自分なりの学びを深めている様子が印象的でした。

午後は「ガマ」を訪問しました。ガマとは、沖縄戦当時、避難所や軍事施設、さらには病院の分室として使われた自然の洞窟です。中には今もなお多くの遺物が残され、当時の記憶を静かに伝え続けています。

ガマの中では、ガイドの方から当時の想像を絶する状況についてお話を伺いました。明かりをすべて消した瞬間に広がる深い闇と静寂。その中で感じる不安や恐怖は、当時の人々の過酷な状況をわずかながら想像させるものでした。同時に、普段何気なく浴びている太陽の光のありがたさや、日常の尊さに気づいた生徒も多かったことでしょう。

ここでの体験は、前日に資料館で学んだ内容と深く結びつき、学びをより立体的で実感を伴ったものへと変えていきました。

夕食後に行われた平和講話では、沖縄戦から81年という歳月を経てもなお、その記憶を語り継ぎ、命の尊さと平和の大切さを伝えようとする講師の熱い思いに触れることができました。

生徒たちは真剣な表情で耳を傾け、懸命にメモを取りながら、一つひとつの言葉を自分の中に刻み込んでいました。

この日得た学びを、単なる過去の出来事として捉えるのではなく、今この瞬間にも世界で起きている出来事と結び付け、自分自身の問題として考えていくこと。その大切さを強く感じる時間となりました。

3日目は、沖縄国際通りをグループごとに散策しました。それぞれのグループが計画をもとに行動し、限られた時間の中で、お土産を選んだり、沖縄ならではの食事を味わったり、思い思いの時間を過ごしました。にぎやかな通りを歩きながら、仲間と笑い合い、時には行き先を相談しながら進むその時間は、何気ないひとときでありながらも、特別な思い出として心に残るものとなったことでしょう。修学旅行の締めくくりとなるこのひときは、これまでの学びや体験を振り返りながら、仲間との絆をより一層深める機会ともなりました。沖縄で過ごした時間の一つ一つが、これから先の学校生活や日常の中でふとよみがえる、温かな記憶として残り続けていくことと思います。

3日間の修学旅行を通して、生徒たちは平和について、自然や環境について、そして異なる文化について、多くのことを学び、感じることができました。実際にその場に立ち、自分の目で見て、耳で聞き、心で受け止めた経験は、何にも代えがたい大切な財産となったことでしょう。

これらの学びをその場で終わらせるのではなく、これからの生活の中で振り返り、自分自身の在り方や行動につなげていくことが何よりも大切です。

今回の修学旅行で得た「気づき」が、やがて「考え」へ、そして「行動」へとつながり、よりよい未来をつくる力となっていくことを願っています。生徒一人ひとりが、この経験を糧にさらに成長していくことを期待しています。

保護者の皆さまには、修学旅行に向けての準備をはじめ、送迎や体調管理などさまざまな面でご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございました。

天候の心配もある中での実施となりましたが、大きなトラブルもなく、生徒たちが元気に帰ってくることができたのは、日頃からのご家庭での支えがあってこそと感じております。

今回の修学旅行を通して得た経験や学びを、今後の学校生活や成長につなげていけるよう、今後ともご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。